

人吉高等学校五木分校 令和3年度(2021年度)学校評価表

| |
|--|
| 1 学校教育目標 |
| <p>ア 本校の綱領「礼節」「勤労」「進取」の精神を念頭に、全職員一体となって愛情と信頼を基調とした教育を実践し、心豊かで調和のとれた、社会に貢献できる人間の育成を図る。</p> <p>イ 豊かな自然環境の中で、豊かな人間性と健康な体を育み、自信と誇りをもった澁刺とした生徒の育成を図る。</p> <p>ウ 小規模校としての特長を最大限に生かし、生徒一人一人の個性を伸ばすとともに、特色ある学校づくりを実践する。</p> |

| |
|--|
| 2 本年度の重点目標 |
| <p>教育スローガン「一人一人が輝く分校生！」</p> <p>1 基本的な生活習慣と学習習慣の確立を通して自己管理能力を育成し、自己実現に向かう心を育成する。</p> <p>2 ICTを活用した教育活動の進化と深化による、主体的・対話的で深い学びを充実させる。</p> <p>3 進路指導の充実を図る。</p> <p>4 多様な生徒への対応に努める。</p> <p>5 地域に根ざした特色ある取組を推進する。</p> <p>6 校務改革に取り組み、生徒と向き合う時間を確保し、職員の多忙化の解消に努める。</p> |

| 評価項目 | | 評価の観点 | 具体的目標 | 具体的方策 | 評価 | 成果と課題 |
|------|------------|-------------|--|--|----|---|
| 大項目 | 小項目 | | | | | |
| 学校経営 | 信頼される学校づくり | 広報活動の充実 | <ul style="list-style-type: none"> ホームページの充実。 分校ニュースの発行。 「地域とともにある学校」の実践。 | <ul style="list-style-type: none"> ホームページを週3回以上更新し、アクセス数が一日平均100を超す。 生徒の頑張りを情報発信する分校ニュースの毎月発行、保護者、地域機関、五木村民、出身中及び学校運営協議会への配付とホームページへの掲載。 学校行事等を地域へ発信。 | A | <ul style="list-style-type: none"> 一年をとおして、ホームページの更新及び充実を図った結果、アクセス数が年間を通して一日平均100を超えている。 内容の充実した分校ニュースを毎月発行し、関係者や関係機関に毎月届けることができた。特に中学校へは直接届け、情報交換を図ることもできた。 |
| | | ボランティア活動の充実 | <ul style="list-style-type: none"> 地域貢献のための環境美化活動の実施。 地域の交通安全運動の協力。 | <ul style="list-style-type: none"> 定期考査最終日及び夏休みに学校周辺の清掃・美化活動を全校生徒・職員で実施(学期に1回以上、年5回以上目標)。また地域と連携をはかり新たなボランティア活動を模索する。 毎月月初めにあいさつ運動を実施。 | B | <ul style="list-style-type: none"> 定期考査後に村内ごみ拾い及び小学校の除草作業を実施した。年4回の実施であった。 あいさつ運動は、予定どおり毎月月初めに実施できた。 |
| | | 五木秀麗会との連携強化 | <ul style="list-style-type: none"> 秀麗会、保護者懇談会等を通じた連携。 保護者の協力を得ながら運動会等の各種行事の成功。 | <ul style="list-style-type: none"> 秀麗会役員との密な連絡。 日頃から担任と保護者の密な連絡・相談等を通し、良好な協力関係の構築。 | A | <ul style="list-style-type: none"> 秀麗会との連携により、役員会でも多くの建設的な意見をいただいた。また、保護者からの多大な協力を得て、各種行事を成功させることができた。 「五木分校保護者クラブルーム」に保護者 |

| | | | | | | |
|----------------|---|--|---|---|---|---|
| | | | | | | 限定分校ニュース電子版を配信、多くの写真を掲載し、日常的な生徒の様子を伝えた。 |
| 地域に密着した教育活動の充実 | 地元保育所・五木東小学校・五木中学校との合同事業の充実 | <ul style="list-style-type: none"> ・第9回保小・中・高合同大運動会の円滑な運営と成功。 ・小学校や中学校との交流、合同研修会や行事の充実 | <ul style="list-style-type: none"> ・地元保育園・小学校・中学校及び各校種PTAと密接な連絡体制の構築と連携。本年度は五木分校が担当校。 ・救急講習、防災教育、各種講演会等における中学校との合同開催の実施。 | A | <ul style="list-style-type: none"> ・合同運動会は1日順延での実施だったが保護者、地域の方々や各校種の先生方の協力により午前開催プログラムで実施できた。 ・防災教育は、中高連携で開催し、6月中学校主催、11月高校主催で生徒に密着した取組となった。 | |
| | 地域中学校との連携強化及び入学生徒数の確保 | <ul style="list-style-type: none"> ・中学校への魅力発信の取組の充実。 ・令和4年度入学者数2桁を目標。 | <ul style="list-style-type: none"> ・体験入学及び学校紹介DVDの内容の充実とマスコミ等を活用したPR。 ・在校生の状況に関する情報共有を通じた本校の丁寧な対応のPR。 ・五木分校ラッピングバス事業の取組。 | B | <ul style="list-style-type: none"> ・体験入学は38人という近年にない人数が来校し好評であった。 ・五文祭や周年記念事業、ICTモデル授業などの情報を新聞社に提供し記事に取り上げられた。 ・学校紹介DVDを管内中学校に配布した。 ・ラッピングバスは予算の都合上見送らざるを得なかった。 | |
| | 五木村関係機関や団体との連携と行事等への協力 | <ul style="list-style-type: none"> ・分校独自の教育活動の展開。 ・五木村の教育活動への参加。 ・警察と連携した交通安全指導等への参加。 ・消防署と連携した、救急法講習や防災教育の実施。 ・年に10週あいさつ運動の実施。 | <ul style="list-style-type: none"> ・五木分校スクールミッションの五木村との討議。 ・五木村学校運営協議会、五木村人権教育推進協議会、五木村青少年育成会議への参加。 ・五木村で行われる交通安全運動、社会福祉協議会の福祉祭、駅伝大会等への生徒会を中心とした積極的な参加。 ・中学校との連携を密に図り関係機関との調整を円滑に実施。 ・地域の方々への挨拶により、地域との良好な協力関係を構築。 | A | <ul style="list-style-type: none"> ・スクールミッションを学校運営協議会で検討した。 ・五木村の各種会議に参加することができた。 ・あいさつ運動を計画どおり実施できた。 ・交通安全運動や福祉祭等、コロナ禍で中止となった五木村の行事があった。 | |
| 業務改善働き方改革 | <ul style="list-style-type: none"> ・生徒と向き合う時間の確保 ・職員が多忙解消 | <ul style="list-style-type: none"> ・職場環境の整備。 ・職員の生産性の向上。 ・文書管理、データ管理の効率化。 | <ul style="list-style-type: none"> ・学校改革推進委員会によるボトムアップの提案、改革。 ・文書管理、データ管理に関する職員研修の実施。 ・校務のデジタルシフトの推進 ・衛生推進会議の開催。 ・OJTの推進。 | B | <ul style="list-style-type: none"> ・学校改革推進委員会主導で職員室の配置変更を行い、職場環境が改善された。 ・文書、データの管理がICT活用により効率化が図れた。 ・衛生推進委員会を毎月開催したが、時間外勤務の削減をさらに進める必要があ | |

| | | | | | | |
|------------------|---------|--------------------|--|--|---|---|
| 学 力 向 上 | 教育課程 | 教育課程の検討実施 | <ul style="list-style-type: none"> ・新教育課程の編成・実施と検討。 ・社会に開かれた教育課程の編成・実施と、カリキュラムマネジメントにおける教科横断的授業の検討。 | <ul style="list-style-type: none"> ・教育課程検討委員会を実施し、将来のビジョンに関する検討と進路指導體制の強化。 ・進路指導と連携した、生徒の就職や進学等、幅広い進路選択に対応できる教育及び職業教育の指導計画の推進。 | A | <p>る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育課程検討委員会を実施し来年度の編成を見直すとともに、新教育課程における評価の事前実施と検討を行った。 ・進路部との連携を図り、総合的な探究の時間やLHRの時間においてキャリア教育を行った。 |
| | 基礎学力の定着 | 学校設定科目「ステップアップ」の充実 | <p>生徒間の向上心の高揚を図り、以下のような昇級を目指す。</p> <p>1年・・・7段階昇級 2年・・・6段階昇級 3年・・・5段階昇級</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・全学年を3段階の習熟度別グループに分け、TTによる振り返り学習の実施。 ・1級以上合格者に対してICT端末機器を活用した個別指導の実施。 | B | <ul style="list-style-type: none"> ・各学年の目標とした昇級数は未達成だが、タブレット端末の利用を取入れることで、生徒間の向上心の高揚をさらに図ることができた。 ・1級以上の合格者に対してICT活用を促すことで学習の個別最適化を行うことができた。 |
| | | 家庭学習時間の確保 | <ul style="list-style-type: none"> ・各教科の課題(「日々の課題」等)の未提出者0。 ・考査前の学習時間(1日平均)を一年生は1時間30分、二年生は2時間、三年生は2時間30分を目標とする。 | <ul style="list-style-type: none"> ・各教科の連絡ホワイトボードを利用した教科担当と担任との連携の深化、及び生徒の自己管理能力の育成。 ・学年に応じた基礎学力向上を目指した質と量の日々の課題の作成。 ・考査前学習会を有効に使った学習時間の確保。 | C | <ul style="list-style-type: none"> ・各学年ともに、連絡ホワイトボードやICTを活用することで、課題の未提出者が減少しつつある。 ・1、2年生の学習時間は昨年度より増加した。ICT機器を活用しながら、主体的に学習に取り組む、生徒たちの自己管理能力のいっそうの育成が課題である。 ・考査前の学習時間(1日平均)は次の通りとなった。一年生・・・120分、二年生・・・100分、三年生・・・102分。 |
| | 授業の充実 | 「達成感のある授業」の構築 | <ul style="list-style-type: none"> ・ICT機器の有効活用を行い、教員の授業の質を高める。 ・生徒の学力に応じた授業の工夫と個別指導を充実。 | <ul style="list-style-type: none"> ・ICT機器を利用したKI20の実践と、公開授業及び研究授業による授業力の向上。 ・各定期考査前学習会の実施。 | A | <ul style="list-style-type: none"> ・特定推進校として、ICT機器の授業での活用を行い、年に数回の研究授業や研修を実施し、授業力の向上を図ることができた。 ・考査前の学習時間を確保することで、成績不振者数を減らすことができた。 |
| | | 授業時間の確保 | 学校行事の精選。 | ・行事の内容と期間の見直し。 | B | ・後期選抜の日程変更に伴う行事の見直し等を行い、例年通りの授業数や行事数を実施することができた。但し、学びの基 |

| | | | | | | |
|--------|---------------------|----------------------------|--|---|---|---|
| | | | | | | <p>礎診断の受検回数や時期など見直しが必要である。</p> |
| | | 研究授業の実施と授業改善 | <ul style="list-style-type: none"> 研究授業の実施。 学びの基礎診断を活用した授業の見直し。 | <ul style="list-style-type: none"> 研究授業後の合評会の充実。 学びの基礎診断のデータをもとにした職員研修の実施。 | A | <ul style="list-style-type: none"> I C T機器の活用を軸とした研究授業を予定以上に行い、教科の枠を超えて授業の質を高めることができた。 全職員が教科に係る研修会や公開授業等に1回以上は参加することができた。 |
| キャリア教育 | キャリア教育の充実 | キャリアガイダンスの充実 | <ul style="list-style-type: none"> 3年間を見通したキャリア教育計画の再構築。 外部講師による進路学習の実施。 I C Tを活用した進路学習の実施。 | <ul style="list-style-type: none"> 進路指導部を中心に計画を作成。 進学、就職に関する講話や、社会生活に向けた講話を通して、進路について考える機会を設ける。 I C Tを活用し、情報収集能力をつけ、エントリーシート等の作成を行う。 | B | <ul style="list-style-type: none"> 総合的な探究の時間とL H Rを活用したキャリア教育計画を作成中。 進学ガイダンスへの参加、ハローワーク、ジョブカフェ等外部機関と連携した進路講話を実施。 I C Tを活用した履歴書、志望理由書の作成指導、オープンキャンパス報告会(1年生)を行った。 |
| | | 就労観の育成 | <ul style="list-style-type: none"> インターンシップの実施 | <ul style="list-style-type: none"> インターンシップを通してコミュニケーション能力の大切さや、時間を守ることの大切さを学ぶ。 | B | <ul style="list-style-type: none"> 事前準備として、企業調べ等を実施したが、コロナ禍のため、中止となった。 |
| | | 「総合的な探究の時間」における系統的な探究学習の充実 | <ul style="list-style-type: none"> 協働体験学習を充実させ、社会生活に必要なコミュニケーション能力、思考力、創造力の育成。 | <ul style="list-style-type: none"> 1学期までは農作物を協働して育てることでコミュニケーション能力の育成を図る。 2学期以降は探究学習を行い、自ら設定したテーマで調べ学習を行い、まとめた内容を発表する。 | A | <ul style="list-style-type: none"> 農園での作業を通して、全学年の生徒が協働する場が確保され、コミュニケーション能力を磨くことができた。 学年ごとに担任指導のもと探究活動を行い、五文祭での発表を実施した。 県立大学との連携を行い、成果をK S Hで発表した(1年生)。 |
| | | 個に応じた進路指導 | 各自の進路希望に応じた個別指導の実施 | <ul style="list-style-type: none"> 進路希望の100%達成 | <ul style="list-style-type: none"> 進路希望調査及び個別面談を適宜実施し、個に応じた課外や面接指導の実施。 関係諸機関との連携とともに個別指導の充実を図る。 | B |
| 生徒指導 | 基本的な生活習慣の確立と規範意識の高揚 | 基本的な生活習慣の確立 | <ul style="list-style-type: none"> 自らの力で生活態度を向上させる態度の育成。 | <ul style="list-style-type: none"> 「学習・生活の記録」の毎日の提出。 気になる生徒への担任面談の実施と保護者との連携。 週に1回片付けの時間を | B | <ul style="list-style-type: none"> 学習・生活の記録により家庭の様子を理解し、面談に活用することができた。 家庭での基本的な生 |

| | | | | | | |
|---------|----------------|--------------------|---|--|---|---|
| | | | | 設定することによる整理整頓の習慣化。 | | 活習慣を育ませ、さらに自立心を養わせる必要がある。 ・整理整頓を習慣化するための片付けの時間確保ができた。 |
| | | 規範意識の高揚 | ・生徒会行事や学級活動等での集団での行動や月例集会講話を通して、規律ある行動ができる集団の育成。 | ・交通安全指導、整容や言葉遣い指導等を通して規範意識の向上とマナー、モラルの育成。 | B | ・整容面での軽微な違反はあったが、個別に指導することで規範意識の喚起と改善が図れた。 ・他者への影響を考えない言動等は未だ見られるため、多くの機会からアプローチしていく必要がある。 |
| | | 家庭との連携 | ・問題行動、トラブル等を未然に防止する態度の育成。 | ・毎学期いじめアンケート調査、生徒の日常観察、家庭との密な連携等による全職員の生徒の情報共有によりトラブルの未然回避。 ・保護者への啓発を行う場の設定と安心メールの有効活用。 | A | ・安心安全メールやホームページ、また電話や家庭訪問等できるだけ保護者と連携をとってきた ・大きなトラブル等は見られないが、因子がないわけではないので、日頃から密に連携をはかる必要がある。 |
| | 生徒の主體的活動の充実 | 主體的な生徒会活動の推進 | ・全生徒の生徒会活動への参加。 | ・全生徒が生徒会の係を分担し活動を行い、生徒総会、月例集会の生徒会による運営の充実。また定期的に委員会を実施し、生徒会の一員としての活動機会の充実。 | A | ・責任感を持って企画運営の係仕事に取り組む姿が数多く見られた。また、各種委員会も活発に行われ、生徒の活躍の機会が確保された。 |
| | | 放課後の時間を活用した学校生活の充実 | ・部活動への積極的な参加や自らの課題と向き合う学習への取り組み | ・昨年度から総合運動部・総合文化部に部活動を改変したため、生徒に積極的な参加を促すとともに、様々な体験を通して新たな目標を持たせる。また、自らの課題の理解と自己管理能力の育成。 | B | ・部活動加入率は全員パソコン部入部で100%となっている。各部活動の実態に応じて練習や各種大会やコンクールに参加できた。 ・学習との両立や、通学バスの便数により活性化が難しい。今後五木分校にとっての部活動のあり方の検討が必要である。 |
| 人権教育の推進 | 個々の生徒に応じた適切な指導 | 生徒一人一人の状況把握と柔軟な対応 | ・各学期1回以上、職員研修(生徒理解、特別支援等)の実施。 ・毎週の運営委員会での生徒の状況報告と実態把握。 | ・外部の専門家との連携を密にした積極的な活用。 ・生徒理解の資料作成と、全職員が生徒個々の特性と現在の状況を共通理解し指導に生かす。 | A | ・スクールカウンセラーとの連携を密にして、生徒一人一人へのよりよい指導や支援に繋げることができた。 ・各学期の生徒理解研修や支援会議等を開催し、職員で共通理解を図った。 |

| | | | | | | |
|---------|-----------------|-----------------------------------|--|---|---|--|
| | | 生徒と教職員、生徒同士の望ましい人間関係の構築 | <ul style="list-style-type: none"> ・3年間を見通した人権教育LHRの計画的な実施。 ・各行事を通して、生徒の自尊感情の定着と互いを認め合うことのできる育成。 | <ul style="list-style-type: none"> ・学年ごとにテーマを設定し、わかりやすい授業実践。 ・学校行事では、生徒全員が互いに協力して作りあげる取組を重視した計画を立てて、全職員で支援にあたる。 | A | <ul style="list-style-type: none"> ・五文祭の大凧揚げで生徒全員が互いに協力し、認め合う態度が醸成された。委員会活動における発表で、力を尽くし合い、協調的なつながりがあらわれた。 ・学年間や異校種との交流活動で分け隔てなく接し、他者と支え合う姿が見られた |
| | 命を大切にすることを育む指導 | 取組をとおした生命の尊厳並びに他者の価値観を尊重する自尊感情の育成 | <ul style="list-style-type: none"> ・各学期「自他の価値を尊重する意欲や態度」を育む授業やLHRの実施。 ・月例集会講話等で思いやりの心や強い心の醸成。 ・ボランティア活動の推進。 | <ul style="list-style-type: none"> ・各教科科目の授業で、「命を大切にすることを育む」についての授業を行う。 ・LHR、総合的な探究の時間や月例集会等を活用し、日頃から「思いやりの心」について講話を行う。 ・ボランティア活動による自己有用感の深化。 | B | <ul style="list-style-type: none"> ・人権学習LHRアンケート調査から「思いやりの心」が、総合的な探究の時間においては「命を大切にすることを育む」がうかがわれた。 ・ボランティア活動により地域から謝辞をいただいている。学校評価アンケートや心のアンケートの結果から、自己有用感ほさらに高める必要がある。 |
| いじめの防止等 | いじめ防止基本方針の着実な推進 | いじめを許さない心を育む指導の充実 | <ul style="list-style-type: none"> ・いじめ発生0を目指す。 ・いじめにつながらない学校全体の土壌づくり。 ・職員間における生徒の情報共有。 | <ul style="list-style-type: none"> ・全体指導と個別面談を行い、いじめの未然防止。 ・月例集会における生活態度等についての注意喚起。 ・徹底的に生徒情報を職員間で共有し、生徒の小さな変化を見逃さず早期発見、早期対応、早期解決、再発防止のできる体制と環境づくり。 | A | <ul style="list-style-type: none"> ・養護教諭を中心に相談しやすい雰囲気作りに努めたことで、悩みや困り感に対し迅速に対応し、未然防止を図ることができた。 ・毎学期のいじめアンケート調査では、いじめ件数ゼロであった。 ・軽微とはいえ相手に不快感を与える言動も見られるため、さらに意識を高めていく必要がある。 |
| | | 生徒の状況把握と迅速な指導体制の構築 | <ul style="list-style-type: none"> ・相談窓口の周知と日頃の生徒間の行動観察と情報共有。 ・年3回の心のアンケートの実施と外部の専門家を活用したいじめ問題対策委員会の毎学期実施。 ・いじめ防止 | <ul style="list-style-type: none"> ・相談窓口を合格者説明会、入学式、1学期始業式、五木秀麗会総会で生徒保護者に周知徹底。 ・健康相談・教育相談担当、担任の日常観察及び運営委員会報告等、全職員が生徒の変化を把握した上で適宜対処。 ・いじめ防止に関する職員研修の実施。 | A | <ul style="list-style-type: none"> ・担任による健康観察や養護教諭による「いきいき相談」等を通じて、生徒の変化の早期発見に努め全職員で対応できた。 ・外部専門家(SC/SSW)を交えたいじめ問題対策委員会や生徒理解研修、日々の情報交換で職員がいじめに対する察知力や危機意識の向上に努めた。 |

| | | | | | | |
|--------------------|---------------------------------|--|--|---|---|--|
| | | | 基本方針の活用。 | | | |
| 地域連携（コミュニティスクールなど） | 学校運営協議会をベースにした、地域と一体となった連携体制の構築 | 統合型コミュニティスクールによる地域や関連機関との連携の確立 | <ul style="list-style-type: none"> 行政、地元小中学校、保護者、地域住民代表と連携し計画的な協議会の開催。 五木村学校運営協議会への参画 | <ul style="list-style-type: none"> 五木分校の教育活動の説明、主な行事の視察と承認。 五木分校への地域貢献活動のニーズの把握。 五木東小学校、五木中学校の運営への協力。 | A | <ul style="list-style-type: none"> 計画的に学校運営協議会を開催した。 五木東小学校での除草作業や夏休みこども教室、道の駅での清掃ボランティア活動など、行事の改善や見直しをすることができた。 |
| | | 防災教育の充実 | <ul style="list-style-type: none"> 学校防災年間計画の作成と防災教育の充実。 | <ul style="list-style-type: none"> 生徒の防災意識を高める取組みと中学校との合同防災訓練（風水及び土砂）の実施。 | A | <ul style="list-style-type: none"> 防災教育は、中高連携で開催し、川辺川ダム砂防事務所や消防署の協力のもと生徒に密着した取組となった。 |
| 職員研修 | 職員の資質の向上 | <ul style="list-style-type: none"> 不祥事の根絶 人権意識といじめに対する感性の向上 ICT活用 授業改革 | <ul style="list-style-type: none"> 不祥事0に向けた規範意識の高揚。 人権意識の向上、規範意識の高揚。 ICTを活用した授業改革。 ICT指導力の向上 | <ul style="list-style-type: none"> 定期的な職員研修と職員朝会での機会を捉えた注意喚起。 言語環境を整え、人権意識の高い職場環境への醸成。 公開授業や研究授業に向けた研修等の実施と研究会等への積極的な参加。 授業におけるICTの日常的活用。 | A | <ul style="list-style-type: none"> 職員研修や朝会で不祥事防止や交通安全の注意喚起を行った。 学校評価アンケート結果に、人権教育へ職員が協力しながら取り組んだことが表れており、また保護者の理解も得られたと考えられる。 ICT活用に全校的に取り組み、研修や公開授業も行った結果、ICTを活用した授業が日常的に行われるようになった。 |

4 学校関係者評価

- (1) 学校経営について
 - 各取り組みについて、良い結果に繋がっている。
 - 毎月学校だよりを作成し、地域に配付している。地域の方々に分校の様子を知っていただくのによいと思う。
- (2) 学力向上について
 - 少人数指導や個別指導が行き届いている。自主学習や家庭学習が少ないのはそれで満足しているのではないだろうか。
 - ICT活用により学習や活動の幅が広がった。
 - 「生徒一人一人の個性や能力を伸ばし、進路目標を達成させるための努力をしている」の職員評価が100%というのは素晴らしい。
- (3) キャリア教育について
 - 五木分校の魅力はていねいかつ個に応じた進路指導ができること。五木分校に通ってよかったと思っている生徒が多い。
 - 生徒にニーズに応じた進路が達成されたことは素晴らしい。
- (4) 生徒指導について
 - 家庭との連携でトラブルを未然に防ぐよう、早めに情報の共有ができる環境がつけるとよい。
 - 生活態度に対する保護者評価が上がっている点は評価できる。問題行動の防止を含め、教職員の指導によるものと思う。
 - 健全な男女交際についてさらに指導が必要だと思う。
 - 昨今大きな問題となっている携帯電話について、正しい使い方をしているという回答が100%という点に感心した。

(5) 人権教育の推進について

- ・一人一人が大切にされている様子が日頃からうかがえる。
- ・保護者が100%の評価をしているのは、学校への信頼の証だと思う。
- ・校内の人権尊重の意識の高さがうかがえる。
- ・自己肯定感が低いという結果が出ているので、さらなる取組の充実を期待する。

(6) いじめの防止等について

- ・いじめゼロは日頃からの先生方の絶対に許さないという信念の結果であって、大変素晴らしい。

(7) 地域連携（コミュニティースクールなど）について

- ・夏休みこども教室のボランティア活動、小学校のグラウンド整備ボランティア等、大変感謝している。新たな取組があり、連携が深まった。
- ・地域と学校が連携して、子どもたちの成長を支えていかなければと改めて思った。

(8) 職員研修について

- ・分校職員同士、お互いに学びあう姿勢を持っていることは素晴らしい。

5 総合評価

(1) 学校経営について

学校行事については生徒・保護者・職員ともに高評価で、生徒にとって魅力あるものになっている。生徒・職員と比較して保護者の評価が少し低いのは、新型コロナウイルス感染症対策で中止・縮小になった行事が多く、保護者が参加する機会が減ったことが原因として考えられる。

広報活動の充実については、毎月地域に配付している分校ニュースは学校関係者からの評価も高く、「地域とともにある学校」の効果的な取組となっている。

働き方改革については、時間外勤務の削減をさらに進める必要がある。

(2) 学力向上について

全校的にICT活用の推進に取り組み、学校情報化優良校の認定を受けた。感染症対策や災害対策に対する危機管理体制を整えただけでなく、ICT活用を通して授業改善を図ることができた。

家庭学習時間の確保については、引き続き指導を続けていく必要がある。

(3) キャリア教育について

コロナ禍でインターンシップが中止となった一方、熊本県立大学との連携やKSHでの発表などの新たな取り組みも行い、キャリア教育を推進することができた。また、個別面談を通して進路指導の個別最適化を図った。今後、3年間、さらには卒業後を見通した探究学習の充実を図る必要がある。

(4) 生徒指導について

年間を通して早期対応や悩みごとの掘り起こしを大切にして未然防止に努めた結果、生徒指導上の問題はほとんど発生しなかった。素直に校則を守り行事等に積極的に参加しながら学校生活を送るという生徒のモラル意識は高く評価できる。

生徒の対人スキルの向上についてさらに指導が必要である。

(5) 人権教育の推進について

学校評価アンケートで生徒・保護者・職員ともに高評価である。授業や様々な場で職員が協力しながらの取り組みが結果に表れており、また保護者の理解も得られている。自己有用感を高める方策として、地域に密着したボランティア活動を引き続き推進したい。

(6) いじめの防止等について

療育が専門の方に外部専門家としていじめ問題対策委員会に参加いただき、五木分校の实情に即した指導助言をいただいている。生徒・保護者のアンケート結果からも、安心して通える学校づくりができていると評価できる。

(7) 地域連携（コミュニティースクールなど）について

昨年度から学校運営協議会分科会Ⅱ（五木分校関係）が設置され、保護者・地域の方々に学校経営に参画していただく体制ができ、様々な助言や協力・支援の申し出をいただいた。従来からの合同の学校行事だけでなく、中学校と連携して土砂災害時の避難マニュアルを作成するなど、地域連携をいっそう深化することができた。防災マニュアルの見直しが課題である。

(8) 職員研修について

ICT活用の推進をすすめており、研修や公開授業などを通して、生徒への指導・支援について見直す機会になった。その他、不祥事防止やメンタルヘルスケアなど、年間を通して計画的に研修を実施できた。

6 次年度への課題・改善方法

(1) 学校経営について

課題：学校行事への保護者の参加

方策：新型コロナウイルス感染症の状況により密を避ける必要がある場合、ICT活用による参加を検討する。

課題：働き方改革

方策：実態に即した現状把握により、学校改革推進委員会で原因を分析する。

(2) 学力向上について

課題：学習習慣の確立

方策：現在の「学習・生活の記録」を活用させることにより、生徒の意識改革を図ると同時に、家庭との連携をいっそう進める。

(3) キャリア教育について

課題：探究学習の充実

方策：3年間を見通した探究活動の再構築を図る。

(4) 生徒指導について

課題：生徒の対人スキルの向上

方策：校内における対人コミュニケーションの機会を充実させるとともに、社会的状況を意識することを指導し、対処法などについても指導を行う。

(5) 人権教育の推進について

課題：生徒の自己肯定感、自己有用感の向上

方策：地域と情報交換を行いニーズを把握し、地域へ貢献していることを生徒が実感できるボランティア活動を推進する。

(6) いじめの防止等について

課題：いじめをなくす取組の充実

方策：生徒会で自主的にいじめをなくす取組を実施する。

(7) 地域連携（コミュニティースクールなど）について

課題：危機管理マニュアルの見直し

方策：防災だけでなく、犯罪被害防止や食物アレルギーの対応等についても、網羅的に統合した危機管理マニュアルを本年度中に作成して危機管理体制を確立するなかで地域との連携の在り方も検討し、随時見直しを行う。

(8) 職員研修について

課題：ICT活用の推進

方策：OJTと職員相互の情報交換によるデジタルスキルの向上、ICTを活用したアクティブ・ラーニングの在り方に関する研修を行う。